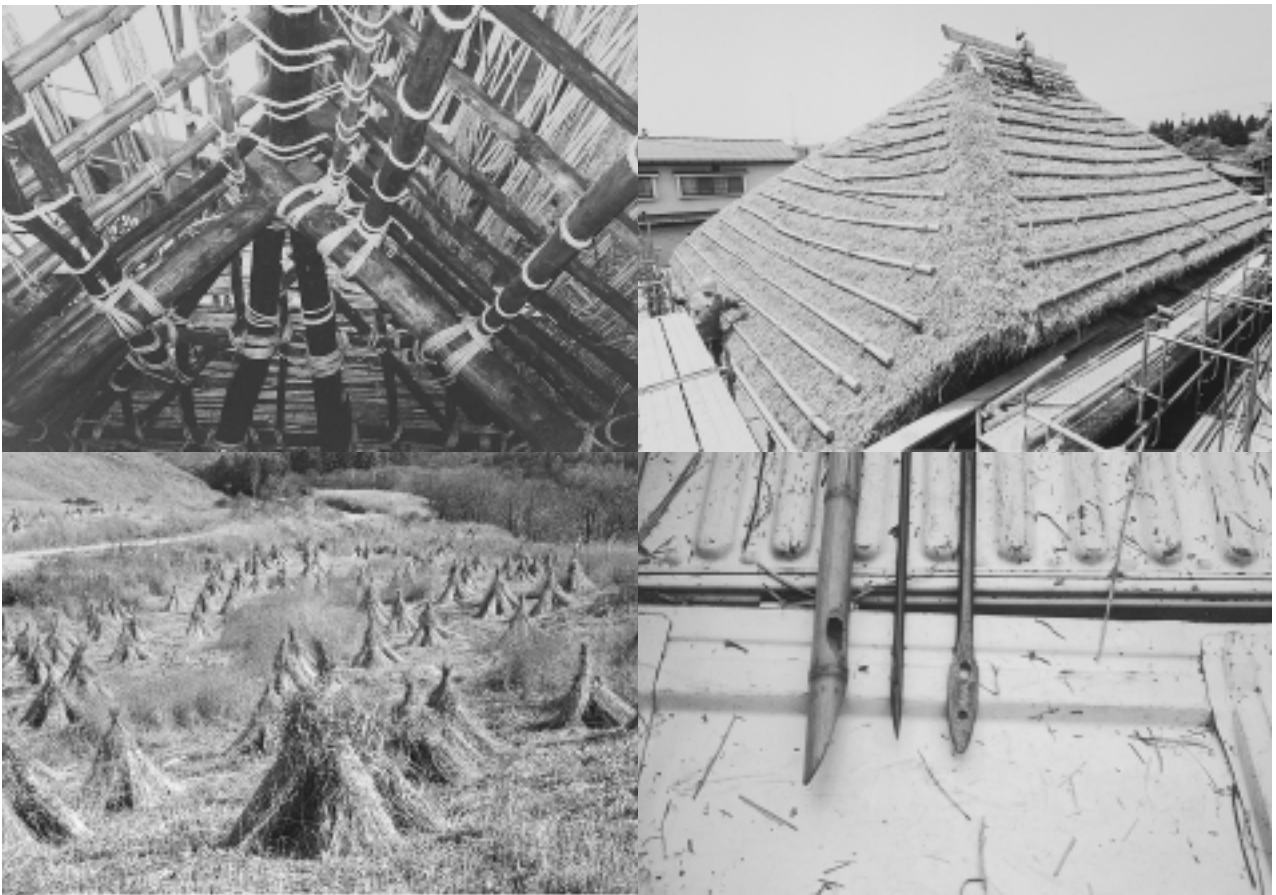


特集  
地域，伝統，風習



右上：旧渡辺家住宅修復工事(岡谷市)

左上：同上「扱首組」

右下：茅葺き工事に使う「槍」、「針」

左下：小谷村の茅刈り、茅を干している風景

支部ニュース「AH!」の第20号をお届けいたします。福井大学の石川先生が部長として、第16号から第19号まで発行するに至りました。これまでのご尽力に対しまして敬意を表したいと存じます。

さて、本号から野嶋が広報部会のお世話をさせて頂くことになりました。最近の北陸各地での様々なおもしろい情報をお伝えしていきたいと考えております。

# 地域・伝統・風習

2001年3月24日長野市信州大学工学部  
社会開発工学科西棟会議室にて

出席者: 吉澤政己さん 信濃建築史研究室(伊那市)  
和田 勝さん  
(有)信濃伝統建築研究所(長野市)  
宮澤尚歳さん (株)宮為建設(長野市)  
北原由也さん (株)北野建設(長野市)  
越野昌幸さん (株)堀内組(長野市)  
司 会: 西山マルセーロ 信州大学工学部

司会: 学会機関誌「AH」では、地域・伝統・風習というテーマで、北陸の各地でお話を聞かせていただいております。今日は、長野県で活躍されている方に伺うということで、特に地域に根ざした伝統建築に関わったお仕事をされています方々をお招きしました。なるべく幅広い職種をを考え、調査・研究、設計、工務店、ゼネコンの方にお集まりいただきましたので、それぞれのお立場で、日常にお考えのことなど、ご自由にお話ししていただければと思います。

## 地域に根ざした伝統の継承

北原: 私の生まれは木曾ですが、長野ではもう30年近くになります。長野は善光寺の門前町ということで、表参道を始め、町並みの保存が進められておりますが、まだまだ駅から途中までは散漫な計画でなされていると思います。それは車社会になったということもありますが、やはり駅から歩いてお参りできる街が良いと思います。そこで一番残念なのが、長野駅が仏都に相応しい形から突然近代的な、どこにでもあるような形になってしまったことです。やはり、地域にあった町づくりが必要だと思っています。

司会: 実際にお仕事をされていて、歴史的というか伝統的な工法で造られた建物の所有者と接することは多いと思うのですが、お施主さんの意識というか考え方は如何ですか。



小谷村の茅刈り作業

越野: 私共の仕事の中で、改築とか新築とかの依頼の中で、特に若い人からは伝統的な工法で造られた建物を壊して建て替



信濃建築史研究室  
吉澤 政己さん



(有)信濃伝統建築研究所  
和田 勝さん

えたいという要望が多いかと思います。そういった時には、よく話をして行って、全部壊してしまうのではなくて、部分的に手を入れていくことを薦めたりもしています。

司会: その後、お施主さんからはどのような反応がありましたか。

越野: あんまり良くなかったですねえ(笑)

宮澤: 私が去年仕事したケースですが、普段私は北信(長野県北部)で仕事をしておりますが、それは中信(中部: 松本付近)での依頼でした。そうすると、日常触れていたものとまったく違ったものが見えてくるという経験をしました。で、それが何なんだろうということを考えながら仕事を進めました。それは、本棟造りの大きな屋根の民家の改修で、予算はないけれど、まあ、快適にしたいという希望でした。昭和の初めに大きな改修をして以来、ちゃんとした手は入れられていないとのことで、見てみますと、一番日当たりの良い南側の真ん中にお風呂と洗面所が設けられているんですね。で、その横に台所がある。その周りをコの字に囲むようにお部屋があるんです。全体の平面は正方形なので、真ん中にまったく光の入らない部屋が二つあるんです。そこで、形だけは伝統的な形式を踏襲して、後は機能本位で造るというやり方をしましたけれど、たいへん喜ばれました。最初に入った設備やさんが、「え、この家壊すんじゃないの」って言っていたのが、最後には「へえ、こんなになるの」って驚いていました。ここで私は、他の地域に行って初めて見えてきたものがあったように感じています。

北原: 私は長野市内のゼネコンの社寺建築に従事しています。日常に技能職方の高齢化とそれに伴う若い後継者が育っていないことの問題を感じています。日本の伝統ある職人の文化が薄れていく、他の産業に若い人が採られていくといった日本の構造的な問題は、特に伝統的な木造建築、社寺建築に顕著に見られています。大工の技能を身につけるといことは、若い時からずっと試練の時が続くということですが、そういう徒弟制度は今の若い人にはなかなか受け入れられないという問題があります。これからは、そういった若い人達をどうやって育てていくかということを考えていく必要があると思います。当社には社寺部がありますがから、たまに修行をしたいという問い合わせがあります



(株)宮為建設  
宮澤 尚歳さん



(株)北野建設  
北原 由也さん



(株)堀内組  
越野 昌幸さん

が、関係の大工さんなどを紹介したりもしています。こういった連絡の制度を整えていくことは、後継者を育てるという意味で、とても大切なことだと思います。

和田:私は伝統的な技術をもった職人さんの中で、これからどんどんと減っていくのは左官と茅葺きの職人だろうと思います。左官屋さんは、設計の段階でも、工期の短縮や施工費の減額などの理由で、湿式工法は削られていっていますし、茅葺きも材料と仕事の確保の両面で少なくなっています。今では、こういった技術は、伝建地域内でしか活かされなくなってしまっています。

宮澤:新築の茅葺きは、都市計画区域内では不可能です。私ができるのは、山の中の物件と公園内の10㎡以下の水車小屋です。

和田:もう少し行政の理解が得られないと、法的な緩和措置ができてこないと伝統的な文化はどんどん無くなっていってしまいます。

越野:茅葺き屋根が少なくなっていくなかで、実際に茅葺きをするとなると銅板葺きより費用が高いということが気になりました。もっと行政側でもそういった価値を認めてくれて、助成をするなどの制度が欲しいと思います。

## 茅葺き屋根

司会:伝統的技術の職人の後継者の問題はいろいろあると思いますが、ここでは茅葺きの問題について考えてみたいと思います。まず、茅葺き屋根の所有者と職人さんとの関係は如何でしょうか。

吉澤:所有者の方には皆それぞれにお願いしている職人さんがいて、毎年少しづつお金を貯めて、後は任せているというケースが多い。職人さんは、毎年そういった家を見て回って、今年はこの部分の手入れが必要とかを決めて、茅場で材料を確保したりしていた。しかし、その内に職人さんが亡くなってしまったりすると、後は誰に頼めば良いかが分からなくなって、葺き替えてしまったりしているというのが現状です。

和田:茅の所有者が葺き替えたいなどの相談を受けることがあるが、どこに頼める職人さんがいるのかが分からないということが良くあります。それに職人さんでも、茅の確保ができない、または貯蔵ができないという問題があります。また、そういった材料の確保の問題で一番困るのは役所の仕事で、年度区切りで発注されるの

で、前もって確保していないとならない茅を急には集められないということがよくあります。

宮澤:私も10年ほど前に、先程お話しした公園の中に6畳ほどの小さな水車小屋を茅葺きで造るという仕事を長野市から受けました。やはり、12月頃に発注になりまして3月までに完成というものでした。でも、その時は市役所の方も気を利かせてくれまして、事前に知らせておいていただけだったので、何とかできました。それでも、半分位雪でずぶ濡れになった茅を使わざるを得ませんでした。職人さんが見かねて、その半分は入れ替えるからということで、何とかやり遂げることができました。その後、戸隠のお蕎麦屋さんをやりました。代々請けているところですが、この時は茅の葺き替えでした。店の看板だから何とか遺したいということでした。困って和田さんに相談したところ、信州伝統的建造物保存技術研究会(以下、信伝研)会員の柴田さんを紹介していただきました。この仕事は、最初お話があったから、3年目に工事をすることができました。ですから一番に良い時期に仕事をすることができました。せっかくですから、お客さんにも工事を見ていただくということで、足場まで棧橋を設けて見ていただきました。多くの方に仕事を見ていただくことができました。

和田:茅葺きの問題で一番困るのは、お客さんから受注があっても茅が安定して確保できないということです。行政の方で伝統文化の継承ということで理解を得て協力していただけるのが理想的なのですが、なかなかそうもいかない。かといって個人の職人達にはそこまでのことはできない。そうなると、今度はお施主さんの方でもせっかくやろうと思ってもできない。すると職人もいなくなるという悪循環になってしまいます。そういう行政がやってくれば良いのだけれど、できないことを特定非営利活動法人がお手伝いしようということで、信伝研が今年から茅葺きの確保



旧渡辺家住宅修復工事

を販売をしようとしています。こうして、茅の安定確保が可能になってくれば、職人さんの意識も少し変わって、やる気が来るんじゃないかと期待しています。

茅葺きというのは30年に一回葺き替えなくてはならないのですが、30年に一度じゃ職人さんはみんな止めていってしまいます。

司会:具体的にはどのようにするのですか。

和田:信伝研はNPO法人ですから、直接工事を請け負うことはできません。そこで、会が窓口の役を果たし、茅を毎年ある一定量確保します。茅葺きの葺き替えや補修の工事が必要な人は、問い合わせただければ、職人や工務店を紹介し、そこに茅を販売します。また、茅だけが欲しい人にも販売できます。

司会:価格はどの程度ですか。

やはり自然のものですから、具体的には相場となるのですが、一般に流通しているものよりは少し安くできると思います。

司会:どういうことですか。

吉澤:茅の収穫というのは、実は様々で、茅場とはいっても平坦で刈りやすいところばかりではないのです。平坦なところならトラックを横付けして作業できるのですが、実際にはむしろ土手や山場の方が多く、人手や馬でしか入れないところの方が多いんです。信伝研の会員でも刈っている人はいますが、茅場に着くのに2回も3回も休みながら行くこともあるそうです。人を雇おうにも、大変すぎて断られることばかりだそうです。

和田:それに一個所で確保できなくて、どうしてもとなれば、遠方まで行きます。茅というのは嵩が張るので、4トン車でいっても大した量は運べません。それでも乾燥すれば1/3程度になってしまうのですが。

吉澤:それでも毎年刈っていないと良い茅ができない。つまり、刈り続けていないと茅場が死んでしまうんです。

司会:大変そうですね。

和田:それでも安定して茅がでるとなれば、保管料まで含めて計算ができる。刈る方にもやり甲斐が持てるということです。信伝研では、毎年ある程度の量を約束していくことによって、または秋までに翌年の量を試算しておくことによって、供給者の安定を確保する事を目指します。また、収穫から保管までを直接管理できる体制ができましたので、それだけ安価にできるということです。こうしていけば、職人さん達も仕事を続けていけるし、茅葺きの建築も使っていけるのではと期待しています。

吉澤:それに安定して刈れれば、刈りやすい良い場所を確保していくことも可能になります。

司会:県外でも対処できるのですか。

和田:もちろんできます。以前、松代(長野市)での仕事であったのですが、茅が必要になったとき、県内の業者に見積もってもらったのですが、他県も検討してみると、青森から運んだ方が安かったという経験がありま

す。そんなに遠くから運送費を掛けても安いというのはおかしいということで、やっぱりきちんとした制度を作らなければと考えています。

## 伝統的建造物の保存技術のこれからの在り方

吉澤:伝統的な建造物のこれからの在り方として、信伝研の顧問の宮澤智士先生(長岡造形大学教授)がなされている伝統的建造物に高気密高断熱の技術を積極的に取り入れていくような方法もあると思います。もう一つは、まあ不便というか今のままで、その良さを活かして使っていくという方法もあると思います。まあ、囲炉裏の周りで皆が火を囲んで過ごすといった使い方もあるのではないかと。両方を考えて行かなくては行けないと思います。そして、古い建物を守っていこうという時に、バックアップのシステムがないということも考えていかなければならない。例えば、新しい建物を建てる時には、いろいろな補助の制度があるけど、古い建物を維持していこうとすると何も無いというようなことです。登録文化財という制度は、それを際立たせることはできても、それを一歩進めていくことはできない。リサイクルという視点で見れば、古い材料を活かしていくということは、環境ということから考えてもとても良いことなので、利活用についてはこれからももっと考えていかなければならないと思います。

司会:例えば、土壁は最初はよいけどだんだん隙間が開くようになってきて寒いといわれる。昔はそうじゃなくても隙間風だらけだったので、別に土壁が悪者扱いはされるわけじゃなくて、むしろ吸湿性が評価されている。でも、他がだんだん良くなってくると、隙間が悪いのに土壁自体が否定されていってしまう。そうではなくて、内側に土付けても外は大壁で行くとか解決の手段はいろいろある。

和田:私の自宅も中は真壁ですが、中空層を設けて外側はモルタルで仕上げています。

宮澤:これからは伝統的な工法ばかりではなく、そこに如何に現代の要求を満たしていくかは必要でしょうね。節だらけでも良い木の活かし方とともにそういったこれからの民家の在り方、技術を研究していくということは必要です。

北原:これまでは工場で造られたものを如何に使うかという技術であったと、これからはどうやってものを造りだしていくかといったことを考える必要があると思います。山で切り出してきた木を如何に使うかといった伝統技術を活かした技術が必要です。そういうことによって、これからを担う人達を惹き付けることもできてるのではないのでしょうか。

越野:長野県は森林資源も沢山ある。もっと自然の材料を活かした建築を考えていければと思います。

どうもありがとうございました。

## ワークショップ体験記

小さな町の小さな公園を設計する機会に恵まれた。住民主体のまちづくりの契機とするため、事業主体となる町役場と相談のうえ、地域住民が主役のワークショップ方式を採用した。

公園の計画案や名称あるいは管理・運営の方法等について住民の要望を出来るだけ取り入れ、地域住民から慕われる公園の整備を目指すと共に、住民意識の向上を図ろうとするものである。

幅広い世代の人に参加してもらうため、区長、老人会、婦人会、子供会を通じて参加者を募ると共に、まちづくり新聞を発行し、地区住民全体に参加の呼びかけを行った。それぞれのワークショップの成果はこのまちづくり新聞を通じて地区住民全体に報告することにした。

敷地の広さの確認から起し絵模型の作成まで、予定外に時間をオーバーしながら、各ワークショップは進められた。私にとっては、公園の設計もワークショップも初めての経験であった。限られた期間と予算の中で、条件整理、情報収集、調査解析、目標設定、計画案作成、計画案評価、計画案決定など作業プロセスの各々の段階でとまどいながら、各グループから提案された案を何とか一つにまとめ最終案を提出することが出来た。

多くの人の意見をまとめると、多数決の論理により、常識的な意見に集約しがちではあるが、設計者と住民の対話が行われ、この中でさまざまな価値観や可能性の検討が十分されることは望ましいことではある。今回は小さな公園ということで参加者もスケールの把握がしやすかったのではないかと思う。

時折現地をたずねてみると、過疎化の進む町では

あるが、近所の子供達や幼児を連れたいお母さん達に会うことが出来、うれしい思いをする。今後は今回の経験を生かし、参加型まちづくりのより実効的な運営方法を



を探って行きたいと思っている。

(株)大森旅人建築研究所 大森旅人

## 子孫を苦しめる街づくり

近年の地球温暖化のスピードは、私たちの地域が1年に4～5 km南に移動しているのと同じで、現代のような生活様式が続くと、100年後の地球の平均気温は最大5.8度上昇すると予測されています。(注1) 過去1万年間では、地球の平均気温は±2.5 の範囲内にあり、気温が5.8度上昇するという事は、この絶妙なバランスが崩れる事を意味しており、私たち現代人はかけがえのない地球そのものを破壊しつつあるといえるでしょう。

現在、地球温暖化の主な原因であるCO<sub>2</sub>の大気中の濃度は年間約1%の割合で増加しており、これは火山活動が盛んだった1億年前の恐竜時代の35倍にあたる量とことです。(注2)大気中のCO<sub>2</sub>濃度をこれ以上増加させないためには、現在排出しているCO<sub>2</sub>を1/2以下に減らす必要があり、今後の発展途上国経済成長や人口増加を考えると、究極的には1/3以下にする必要があります。(注3)

京都会議(COP3, H9)で日本は、1990年～2010年間で6%のCO<sub>2</sub>削減が義務付けられましたが、その後も約8%増加しましたので、残りの10年間で14%の削減が求められています。これは絶望的数値ですが、地球の危機的状況を考えると、私たちは大量消費・大量廃棄型の社会構造を大きく転換しなければなりませんし、早晩、そうせざるを得なくなるでしょう。

次に、車のCO<sub>2</sub>について述べたいと思います。現在、日本でのCO<sub>2</sub>排出量は一人当たり約10トンで、そのうち、家庭・オフィス・商店(民生部門の家庭系)からのものが13%、この分野で使用される乗用車(運輸部門の乗用車分)が9%を占めています。つまり、生活に関連した分野では、乗用車が約41%(福井県48%)も占めており、地球環境面からも車依存率の低い街づくりが求められています。(注4)

近年、郊外に大規模な店舗が次々と建設されていますが、このような街づくりは車の利用率を増加させるばかりです。今後、都市にも厳しいCO<sub>2</sub>削減が求められると予想されますが、拡散する街づくりは次世代に対応できないエネルギー浪費型の都市として子孫からも厳しく問われることになるでしょう。

(注1) IPCC(2001)予測: 100年後 1.4～5.8 上昇

(注2) 人類は80年で滅亡する「西沢潤一、上田勤 共著より

(注3) 地球環境ビジョン 通産省H9

(注4) CO<sub>2</sub>データは環境庁資料H9 41%=9/(13+9)×100  
福井県(H12): 民生部門家庭系12% 運輸部門乗用車分 11%  
酒井建築事務所 酒井良雄



蔵改修計画(2000年6月)  
長野県飯山市の街づくりの一貫として市内にある福田紙店の蔵を改修した。貴重な体験というだけでなく、とても楽しく実り多い、そして何より意義深い活動を行った。

## スギの木の箱に住む

家を建てるにあたり、いくつかの命題を設定した。それは、自分達にとって家とは何か、どのような生活スタイルを望んでいるのかを明らかにすることだった。

## 1 家とは生活を入れる箱である。

家とは、目的ではなく生活のための手段、道具である。生活は変化する。生活を規定する家ではなく生活に柔軟に対応出来る箱の様な家が望ましい。

## 2 風の通る明るい家。

エアコンや暖房器具の使用を前提としたものではなく、夏は窓を開ければ風がとおり、冬には日射しが得られ暗さを感じないそんな住処が欲しい。

## 3 安く丈夫で長持する家

手段である以上、家を建てたために生活、趣味を切りつめるのは本末転倒と考える。しかしローンが終わる前に粗大ゴミになるようなものは造りたくない。虚飾を廃して、合理的なものを造りたい。

さらに、具体的なこととして、「内外装、構造材にスギをできれば県産材を使用すること」とした。

経済指標のひとつとして、住宅の新規着工戸数がよく取上げられるように、林業の浮沈も住宅の建築(もちろん国産材を使用し。)にかかっているようだ。そしてこのスギやヒノキは国内で再生産可能な建築素材である。まわりを見回せば、あふれる工業製品、家もまたサイジングに囲まれ、ボードで張られた壁の中はいったいどうなっているのだろう。欲望は限りない。Ahもうこんな家は欲しくない。たまには思想から、素材から発想する家があっても良いだろう。読者のみなさん、今度家を建てる時は、ぜひ国産(できれば県産)スギで住宅を建てましょう。

え、能書ばっかで手前の家はどうなったんだって。

もちろん、良き理解者、協力者を得て、県産スギの箱の家ができました。快適です。冒頭の3つの命題もほぼ満足しました。設計者、施工者、そして木を植えた人、林業(山)の恵みに感謝!

富山県自然保護課 加藤 誠



## 免震構造の普及を望んで

有史以来、日本人と地震との付き合いは長い。地震国日本にとって、怖いもののたとえである「地震・雷・火事・親父」のように、先頭に位置するほど地震に対する恐怖は大きかった。

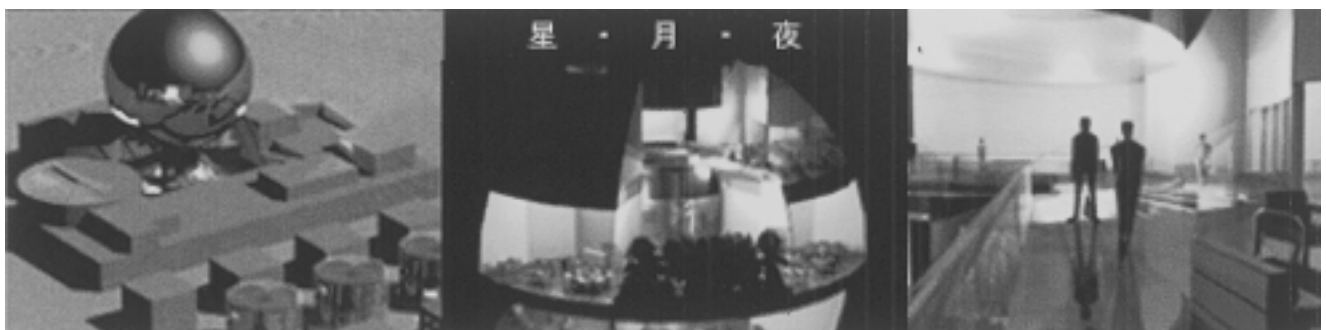
従来、地震に対して建物を強くして耐える「耐震構造」が発達してきた。耐震構造による建物は、建物、基礎、地盤がそれぞれ固定されており、地震による地盤の揺れが直接建物に伝達される。そのため、建物全体が大きな加速度で揺れ、建物内の家具、設備類は建物の揺れをまともに受ける。その結果、建物内の人々は地震による恐怖を感じる事となる。

一方、1995年の兵庫県南部地震以後「免震構造」が脚光を浴びた。免震構造は、基礎と建物の間に柔らかい積層ゴム支承を設け、建物の固有周期を地震動特有の強いパワー成分を有する周期帯から意図的に外すことで、建物に入力する地震動を低減する。このため、大地震時には建物内の人々は「地震かな?」と感ずる程度であり、大地震の揺れに対する恐怖は感じないだろう。

免震構造の設計上の特徴は、建物の耐震性能を明確にできるという点である。免震構造によれば、大地震時でも建物は弾性状態で設計することが可能である。また、偏心していたり、上下の剛性分布が不連続であるような不整形な平面・立面計画の建物でも、免震層において重心と剛心を一致させておけばねじれは少なくなるので、設計自由度が確保される。

改正建築基準法の下、免震建築関係の告示により、建築確認のみでも免震建築物を建設することが可能となったが、設計図書作成のため、健全な免震建築物をスポイルすることにならないかと不安に考える構造設計者は多いと思う。病院、官庁施設など公共性の高い建築物には大地震後でも機能維持が求められる。これを実現するには、現時点では免震建築物が最適だとされている。これを機会に、健全な免震建築物の更なる普及を望む。

株式会社守谷商会 技術研究所 清水 英



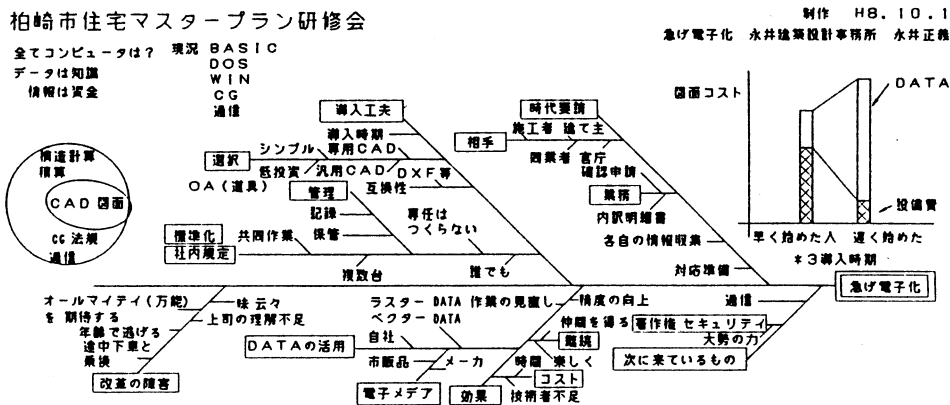
## 特性要因図の活用と産学交流



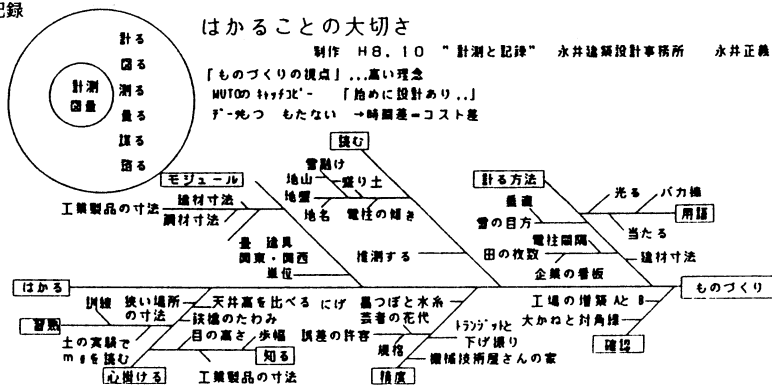
製造業では既に40年前から品質管理、工程管理で用いられている特性要因図(魚骨図)を受講ノートや卓話のレジュメ、打ち合わせ記録に使うと具合がいいと思っていますので紹介します。1枚で全容を見ることができる。系統的に要因を揚げて考えられる。項目加筆が可能。等便利で建築にもその計画から各工程に使えるものと思います。パソコンのデレクトリに似ていますが、別の良さもありその実践例?と業界の話題を記しました。建築が持つ広さからその各分野での要因、要素、経過、とその多様さには驚きです。以下の内容は5年前のものですが、今でも通用する「課題」だをお許し頂ければ有り難い。もう一つの例は新潟工科大産学交流会での卓話時のレジュメで「計測と記録」と題して約1時間半の内容のものいずれも縮小してありますが実際にはA4版で余白もあり補足、時間配分、注釈も記入もできます。写真は新潟工科大夏季実習の「模型造りと現場見学」現在4年間の産学実施継続中

永井建築設計事務所一永井正義

### 1: 急げ電子化



### 2: 計測と記録



修士設計 芸術文化のハイパーマーケット 模型

県内最古の鉄筋  
シリーズ隠れた建築紹介 コンクリート小学校校舎  
「上越市立大町小学校」

学校の校舎といえば、今日では一般の人達は鉄筋コンクリート造が当たり前と思っているが、昭和初期の頃は、小・中学校の校舎といえば木造校舎が普通であった。当時の地方都市で、鉄筋コンクリート造の建物というと、その町のシンボリックな役所とか銀行等で、その数もほんのわずかしかが見られなかった。

新潟県最古の鉄筋コンクリート造小学校校舎は、昭和3年に建築された三島郡三島町の脇野町小学校である。残念なことに、この校舎は平成12年3月取り壊されてしまった。

昭和3年当時、上越市の高田に鉄筋コンクリート造建物は中央電気株式会社(現、東北電力高田営業所)だけであった。その翌年の昭和4年に、現、市立大町小学校が建築され、この校舎が現在県内最古の鉄筋コンクリート造の小学校校舎である。

大町小学校校舎の設計者は、東京日本橋革町の長野建築事務所の荒木孝平である。事務局長は長野宇平治(1867-1937)で、地元、高田の生まれである。明治23年工科大学造家学科(現、東大建築学科)を卒業、横浜税関嘱託、奈良県嘱託を経て、辰野金吾に請われて日銀の設計に携わる。その後、住友銀行東京支店、横浜正金銀行神戸支店をはじめ、日本各地の銀行建築を多く設計している。また、台湾総督府庁舎コンペにも入選。日本建築士会初代会長として、建築の職能制度確立に貢献した。日本では珍しい古典主義建築家として知られている。

このような経歴をもつ長野宇平治の事務所、荒木孝平は長野の右腕として同僚の大沢沢次、金沢孝治等と事務所を切り回した。荒木は、事務所では構造分野が得意であったという。彼が設計したこの大町小学校校舎は、建築されてから約70年、先の阪神大震災で校舎の耐震診断を行った結果、耐力不足で取り壊しの話が持ち上がっている。

大町小学校校舎は、昭和初期の特徴をよく残したスタイルであり、旧校舎のコンクリート造、体育館は鉄骨組立トラス屋根等、当時の構造の見本建築である。

今日では上越市内の数少ない昭和初期の建物一つなので、何らかの方法で後世に残したい建物である。

新潟県立高田工業高校 広田敏郎



大町小学校

いきいき街づくり まちづくり市民塾を  
はじめました

富山市民のまちづくりの会 事務局担当(有)池田建築設計事務所・池田通則です。

富山市民のまちづくりの会は、富山のまちづくりに関心を寄せる市民が集まり1999年7月に設立し、代表は決めず世話人会体制で運営をしています。

今まで、まちづくりワークショップ、とやまの歴史などの【町の宝】を伺いながら雑談できる井戸端会議を開催しています。

まちづくりは今、市民と企業、行政がお互い尊重しあい責任を持って協力して民主的に進めていくこと(協働)がますます必要となってきました。

それは

求められる行政サービス内容が地方によって違うので、中央から一律に決めるよりも、地域の特色を考慮した自己決定が求められること。

税収の縮小から効率的な行政が求められること。が背景としてあります。まちづくりを語るにはまず、自分たちのまち、とやまの事を知ることが重要と思います。

そこで、当会は【まちづくり市民塾】を2001年2月から月1回のペースで開催しています。テーマとして、まちづくりってなに?聞いてみよう世田谷のまちづくり

聞いてみよう富山市の行政 経済からみた富山市の特色  
はじめよう!まちづくり 富山市の自然 まちのかたち  
まちづくりフォーラム を計画しています。

関心のある方は当方まで御連絡ください。お待ちしております。

(有)池田建築設計事務所 池田  
〒939-8141 富山市月岡東緑町1-74  
TEL 076-429-7966  
FAX 076-429-7959

tandj@kitokitonet.ne.jp

(有)池田建築設計事務所 池田通則



「2001年2月25日まちづくり市民塾  
聞いてみよう世田谷のまちづくり」の様子

日本建築学会北陸支部ニュース「AH!」第20号

発行日 2001年5月17日発行

発行 日本建築学会北陸支部広報部会

伊藤 晋栄(新潟) 山下美紗子(富山)

西山マルセ-ロ(長野) 宮下 智裕(石川)

野嶋 慎二(福井) 大岡 龍三(福井)

事務局 室田 文男・瀬口さゆり

〒920-0863 金沢市玉川町15-1、パークサイドビル3F

TEL&FAX 076-220-5566